



# NEWS LETTER かながわ



2013年度 第2号(通巻第14号)

2014年1月27日 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

## 巻頭言

副支部長 秦野 悦子

### 「干支が一巡りした臨床発達心理士 2014年」

2002年に臨床発達心理士の認定が始まりまして、2014年の今年は干支が一巡りいたしました。この資格を人間の育ちにたとえれば、12歳、つまり思春期にはいります。臨床発達心理士という発達・教育・福祉という分野に強みをもつ専門家集団が、これまで仲間を広げ、相互的に自己研鑽を深め相互の育ちあいをしてまいりましたが、さて、これからどのような方向に育っていくのでしょうか。

実践を科学するという基本姿勢は変わりませんが、実践と研究をどのように融合していけるのかということが各自の大きな課題としてあるのではないかと思います。特に実践の指導法、カリキュラム、制度、システムに示唆を与えるような研究が、組織として活性化していく必要があるのではないかと強く感じます。

「学んだことは社会に還元しなさい」とは、学生時代に耳にたこができるほど聞いたフレーズです。しかし、社会に還元するには学び続けるしかないというのが、対人援助を専門職とする者の常であります。心理職として、臨床発達心理士としてそれぞれが何を社会に還元できるのか、干支が一巡りした今年、自身の内面に向き合っていくような年になるのではないかと考えています。



## 神奈川支部研修会報告



**テーマ：「インクルーシブ教育システム構築に向け臨床発達心理士に期待されるもの」**

日時：2013年11月30日（土）10：00～15：30

場所：bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはら セミナールーム

参加者：52人

### <午前の部>

**「発達につまずきがある子の輝かせ方～通常の学級における支援の充実にむけて～」**

**講師：川上 康則（東京都立港特別支援学校 主任教諭）**

講演では、つまずきのある子の輝きのために、その 1「子どもの価値を見出す」、その 2「子どもが自ら動くために、頼りにする、必要とする、という軸もとりに入れる」、その 3「あなたの能力を、必要としている人が世の中には必ずいる！と勇気づける」、その 4「困ったときの援助要求スキルを教え、育てる」、その 5「お試し行動を理解し、教育の軸がブレないようにする」、その 6「ほめる、叱る、は子どもの変化を見届け、価値を高めていく手段」、というキーワードから、多様な実例を挙げてその実態、問題の背景、その理解と対処方法などをご解説いただきました。

川上先生は、特別支援コーディネーターとしての豊富なご経験から、参加者が実践で活用できる研修にしたいとおっしゃり、クイズ、ロールプレー、体験学習、などを取り入れたワークショップ形式で研修は進みました。

川上先生のご講演の全体を貫いているのは、発達障害の子どもの「価値」を見いだすこと。視点を変えることで短所は長所にもなることを多様な実例を挙げてお話しいただき、納得することができました。また、子どもの個別支援計画ではできない事の記載になりがちだが、できることをもっと活用した支援計画を作ることが必要であるとのコメントがありました。まさにそのことは「子どもの価値を見出し、高めていく」基本姿勢であると気づかされました。

（文責：川瀬 良美）

川上 康則 氏



## <午後の部>

### 「インクルーシブ教育システム構築の現状について」

講師：笹森 洋樹（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

今回は、テーマ、講師とも特別支援に関係するものであったために、参加者に学校教育関係者が多くいつもとは少し違う雰囲気でもありました。その中で講師の先生としてはどのようなスタンスで話を出していくかに少しためらわれたかもしれません。聴衆の中には特別支援教育も含め教育現場での動向を全く知らない会員とともに、何度も今回の改正について研修を受け動向に熟知している会員も多く、どちらに焦点を当てて話したらいいかが難しいところであったのではと思います。そのような状況にもかかわらず、現在の状況で何故インクルーシブ教育が問題になり、そのことをどのように理解したらいいかをわかりやすく説明し、問題提起してくださいました。

全世界的に共生社会への実現が進み、障害者の権利に関する条約の締結に基づき教育の分野での共生社会の実現に向けての様々な試みとしてインクルーシブ教育が位置づけられていること、その上で就学相談・就学先決定の在り方、インクルーシブ教育システムを実現するための基礎的環境整備、合理的配慮や教職員の専門性の向上、などについて具体的な学校の現状をあげながら説明してくださいました。また、臨床発達心理士の専門性の向上に関しても多くの示唆を与えてくださいました。

（文責：三宅 篤子）

笹森 洋樹 氏



会場の様子



## 神奈川奈川県支部研修会についてのアンケート結果

### 「インクルーシブ教育システム構築に向け臨床発達心理士に期待されるもの」

参加人数：計 52 人（神奈川支部 50 人、他支部 2 人）、アンケート回収率：79 %

アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果を集計しましたので概要をご報告いたします。

### 1. 今回の研修会の内容について

午前、午後とも参加された方がほとんどで、どちらも「知識の広がり役に役立つ」「臨床場面に役立つ」との回答がほとんどでした。感想の一部をご紹介します。

#### ①午前の部

##### 「通常の学級における支援の充実に向けて」 川上 先生(東京都立港特別支援学校)

- 学校への助言をするとき気を付けることがよくわかり、実際の場面ですぐ役立ちそうです。
- 自分の物の見方、アンテナのはり方、バリエーションの乏しさを痛感しました。精進したいと思います。
- 参加型で考えたり話し合ったりしながらの研修で実感を伴って楽しみながら学ぶことができました。
- 先生のお子さんへの愛情と豊富なご経験に基づいた大変有意義な研修でした。

#### ②午後の部

##### 「インクルーシブ教育システム構築の現状について」 笹森 先生(国立特別支援教育総合研究所)

- インクルーシブ教育の経過や考え方が見え、整理につながりました。
- 今後の教育の流れが少しかつめたように思います。これから形成していく教育システムがよりインクルーシブなものになるよう職務の中で頑張っていきたいと思います。
- 障害のある子どもの支援は「社会をどう作るかを考えること」というお言葉は、その通りだと思いました。
- 早期発見が療育、教育に生かされるような情報の持ち運びができるとよいと思いました。
- 現実的問題解決に向けてどのように動いていけばいいのかお聞きしたかったです。

### 2. 研修会を午前・午後の日程での開催していることについて

今年から研修会を一日日程で開催しています。午前、午後それぞれ別でポイントが得られるようになってきました。そのことについてもお伺いしました。その結果、「よい」の回答が8割で、時間の都合、ポイントなどの観点からよいというご意見が記述されていました。他はどちらでもよいということでした。今後の研修会のプログラムの作成の際のご意見として反映させていきたいと考えます。

(文責：由谷 るみ子)

## 神奈川支部からのお知らせ

### 神奈川支部 2014 年度 総会および第 1 回研修会 (予定)

○日時：2014年 4月 27日 (日) 10:00～16:30 (1.5ポイント)

○会場：bono 相模大野 南棟3階 ユニコムプラザさがみはら (相模大野駅横のビル)

○スケジュール：

10:00～13:00 講演会

14:00～14:45 総会

15:00～16:30 分科会

■ 講演会 (午前 1ポイント)

「高次脳機能障害ー心理士として知っておくべきことー」

山口 加代子先生 (横浜市総合リハビリテーションセンター)

■ 分科会 (午後 0.5ポイント)

①「乳児院の現状と課題」

高橋 伸枝先生 (乳児院デュナミス)

②「神奈川県立総合教育センターの教育相談業務について」

由谷 るみ子先生 (神奈川県立総合教育センター)

③「女性の生涯発達における月経周期の発達過程ーその心理・社会的問題と臨床発達心理学的支援ー」

川瀬 良美先生 (淑徳大学)

④「東日本大震災での支援報告とこれからの神奈川支部での災害支援の検討」

尾崎 浩子先生 (横浜市総合リハビリテーションセンター)

⑤「発達障害 幼児期から学齢期にかけての取り組みーアセスメントの難しさと支援方法の模索ー」

中村 泉先生 (横浜市戸塚地域療育センター ピーす東戸塚)

※ 内容は講師等のご都合により変更する場合がございます。

詳細は、後日お送りする案内をご覧ください。

## 今年度の役員会



○第 1 回神奈川支部役員会 2013年 4月 13日 15:00～17:00 横浜市総合リハビリテーションセンター  
定期総会にむけて、今年度の予定について

○第 2 回神奈川支部役員会 2013年 10月 5日 17:00～19:00 横浜市青少年交流センター  
第 2 回研修会、支部会計、災害支援等について

○第 3 回神奈川支部役員会 2013年 11月 30日 15:45～17:00 ユニコムプラザさがみはら  
研修会、次年度にむけて、幹事会報告等について

○第 4 回神奈川支部役員会 2014年 2月 22日 15:30～17:30 横浜市青少年育成センター (予定)  
年度まとめ、次年度方針、研修会等について (予定)

### <編集後記>

寒風吹きすさぶ昨今ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。年度末が近づき、皆様ご多忙のことと思います。ニューズレターでは神奈川支部研修会の報告や職場紹介など、年 2 回の配信で支部会員の皆様にお送りしています。さらにホームページには、よりタイムリーな情報を随時掲載しています。ぜひこちらもご活用ください。(広報担当：武部 正明・白馬 智美)